



真言宗 豊山派 佐渡支所だより

題字 山本憲慈

第11号

平成二十七年十一月一日発行

真言宗豊山派 発行責任者 山本 憲慈
佐渡宗務支所 編集委員長 大場 憲崇

発行所
新潟県佐渡市赤玉六四八
文殊院中
真言宗豊山派佐渡宗務支所

お檀家さまと共に

真言宗豊山派佐渡宗務支所支所長 山本 憲慈

支所長就任三年目となりました。この間、社会貢献、檀信徒教化など支所事業へのご理解とご協力で深く感謝申し上げます。

日本人の宗教離れや寺離れが進行し菩提寺とお檀家様の希薄が叫ばれる中、私の寺でもお彼岸やお盆にお墓参りはされても本堂にお参りするお檀家様の姿を見かけることが少なくなった印象がいたします。菩提寺とはご先祖様が眠る霊場であり、ご先祖様にご加護をくださるご本尊を安置されているところです。さらには宗祖弘法大師さまをお祀りして真言宗の教えが体得できる道場であり信仰心を養う拠り所でもあります。

多忙な日々の生活に追われている今だからこそ、形式にこだわることなく何時でも気軽に菩提所に足を運んでひと時の心の安らぎを感じ、我が菩提寺を知り寺檀の距離が縮まれば有難い事と思っております。

東日本大震災被災地に向いて亡くなられた方々の供養や回向、ネパール大震災被災支援募金活動には支所下お檀家様へも参加を呼びかけ寺檀共同して実践して参りました。今後もお檀家様と連携し一体となつて行動し、相互理解が深まり良い寺檀関係が構築される事が重要であると考えております。また、真言宗智山派佐渡教区寺院との交流促進を図り、協調して布教教化を推進しているところでもあります。



支所長 山本憲慈

去る六月に実施された檀信徒総代会では、智山派の教化推進会議の運営形式の一部を参考に、各寺院から複数人のお檀家さんの参加をお願いしました。支所下寺院教師及び各寺院のお檀家さん同士の仲間意識と連帯感拡大、菩提寺を身近に感じていただく機会となり、共に宗祖弘法大師信仰の高揚に繋がればと期待しているところでございます。

なお、運営につき課題も散見されましたが、来年度には改善して充実した内容で臨みたいと思っております。

来年六月には総本山長谷寺団体参拝を計画し菩提寺を通じてご案内しているところですが、多数ご参加下さいますよう宜しくお願い致します。今後も、お檀家様のご協力をいただきながら専心努力し、その任を努めて参ります。ご支援ご協力をお願い申し上げます。

「ネパール大地震救援募金活動」実施報告



ネパール大地震救援募金活動

真言宗豊山派佐渡宗務支所は、本年七月二十六日（日）・八月二日（日）の両日、両津港佐渡汽船ターミナル玄関において、ネパール大地震の被災者に対する救援募金活動を行いました。

この活動は、本年四月に発生したネパール大地震で大きな被害がでているが、当国が世界の最貧国の一つであることから復興はほとんど進んでいない現状であり、また、ネパールのレンビニーが釈迦生誕の地であることから、本年度のボランティア事業として実施したものです。

両日とも、教師（僧侶）・檀信徒・ネパールの方（新潟市在住）合わせて八名が募金箱を持って立ちましたが、予想をはるかに超える多くの着船した方・出港する方・ターミナルで働いておられる方等に募金していただきました。

早速、八月三日（月）に、山本支所長・池田副長・大場布教長が佐渡市役所を訪れ、鍵谷社会福祉課長様にいただいた募金総額十八万円余りと募金目録をお渡しして、日本赤十字社を通じたネパール被災者への早期の送金を依頼し、快諾を得ました。

なお、この募金活動の様子や目的等について、新潟日報と佐渡テレビで詳しく報道され、ネパール大地震の被災者救援の重要性について、広く社会に発信することができたものと考えています。

平成二十八年年度本山団体参拝申込み募集集中

佐渡宗務支所では、四年ごとに総本山長谷寺や高野山等への団体参拝を実施していますが、毎回大変多くの檀信徒の皆様にご参加いただいております。今回は、平成二十八年年度が実施年に当たりますので、左記のとおり本山団体参拝の旅を企画しました。檀信徒の皆様におかれましては、おさそい合わせのうえ奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

- 一・日 程 平成二十八年六月二十六日(日)～二十八日(火)
- 一・所要経費 一人 九万三千五百円(島内送迎バス代含む)
- 一・募集人員 九十名
- 一・募集締切 平成二十八年一月末日(一次)
- 一・申込方法 申込金二万円を添えて、菩提寺住職へ参加申込書を提出してください。



総本山長谷寺本尊大観音尊像



高野山壇上伽藍根本大塔

それでは、本山団体参拝旅行の企画概要についてお知らせします。

平成二十八年六月二十六日(日)

出発 旅行社手配のバスが、各路線ごとにお迎えにまいります。バスが両津港に到着後、添乗員の誘導で五時三〇分発のカーフェリーに乗船します。新潟港到着後、バスで新潟空港に向かい飛行機で大阪の伊丹空港へ向います。

當麻寺(たいまでら) 団体参拝は全行程バスでの移動となりますが、最初に伊丹空港から奈良県葛城市の新西国三十三万所十一番札所當麻寺へ参ります。當麻寺では、有名な国宝當麻曼荼羅等を参拝いただきます。

総本山長谷寺 長谷寺へ着きましたら、登廊を上がつて本堂へ参りますが、申し出ていただければ本山の車で行くことができます。本堂では檀参特別法要に出席し、事前に申し込んだ回向札や祈禱札にご供養いただきます。法要後、御本尊十一面大観音様のおそばへ参拝し、お御足に触れることができます。その後山内諸堂をご案内いただきます。

六月二十七日(月)

吉野・金峯山寺(きんぷせんじ) 宿舎(みはる温泉美榛苑)から、吉野の金峯山寺へ移動しまして、国宝蔵王堂の蔵王権現等を参拝します。

高野山 吉野から高野山にまいります。案内人の詳しい説明を受けながら奥の院・壇上伽藍・金剛峯寺など高野山を隈なく参拝します。昼食場所(中本名玉堂)で、高野山のお土産をもとめる時間を取ります。

六月二十八日(火)

葛井寺(ふじいでら) 早朝、高野山の宿坊(高野山温泉福智院)でお勤めに出席し、前日申し込んだ供養札や祈禱札を受けて、大阪藤井寺市の西国三十三所第五番札所葛井寺へ向かいます。葛井寺では、国宝十一面千手千眼観世音菩薩等を参拝します。

帰宅 葛井寺から伊丹空港へ移動し、飛行機で新潟空港へまいります。バスで新潟港へ行き、午後五時四十分発のジェットfoilで両津港へ向かいます。両津港からは出発地までバスでお送ります。今回の企画では、参加くださったほとんどの方に明るいうちに帰宅いただきます。



當麻寺の遠景



吉野・金峯山寺蔵王堂



葛井寺御本尊

平成二十七年 檀信徒総代会開催

本年六月二十七日、新穂トキのむら元気館を会場に平成二十七年 檀信徒総代会が開催されました。参加者は、檀信徒総代四十一名、教師(僧侶)十三名、仏教婦人会一名、智山派佐渡教区五名の総勢六十名でした。

はじめに、総本山長谷寺東京出張所主事の小林観秀僧正によって、「総本山長谷寺へのご案内と本山団参の意義について」と題する講演会が行われました。小林講師は、長谷寺紹介DVD映像の詳細な解説と、本山団参の大功德について



小林観秀講師

熱く語ってくださいました。

最後に、「来年の佐渡宗務支所本山団体参拝では、本山を上げて歓迎いたします。」とのお言葉で講演会を締めくくられました。

続いて、佐渡宗務支所概況報告等の檀信徒総代会議事に移りましたが、総代の皆様は最後まで熱心にお聞きくださいました。

仏教婦人会研修会報告

支所下十二番 観正寺寺庭婦人 仏教婦人会会長 三國 裕子

昨年の研修会は常盤座による文弥人形鑑賞でしたので二十七年は人形繋がり、のろま人形の鑑賞も良いのではと早速準備にかかり何とか開催する運びとなりました。

文化庁重要無形民俗文化財指定にされている広栄座によるのろま人形は、人形も古く衣装も昔の趣きその物で、会話が佐渡弁丸出しの素朴な所がとても面白く、楽しいひと時を過ごす事が出来ました。

六月下旬でしたので人形遣いの方々も日中は農業、会社勤めにと忙しいなか仕事を終えてから公演を見せていただきました。

近頃は後継者問題にも頭を悩まされているとの事でしたが、まだまだ元気に演じておられましたし、すばらしい伝統芸能の技を後世に伝えて欲しいと切に願うばかりです。

「おはなや、おはな」おっそっそっ



仏青会長に就任して

支所下八十四番西泉寺住職 仏教青年会会長 中浜 浄明



本年度より就任して以来六ヶ月になります。関係各位の多大なるお力添えをいただきながら、会が運営されていることに、心より感謝申し上げます。

この会の一番大きな活動は、夏に子供たちにお寺を体験してもらおうという、青少年研修会です。今年で二十九回を数えますが、畑野、長谷寺にて多くの子供たちに参加いただき仏教に触れ、良い思い出となった事と思います。

また、ボランティア活動として、今年発生したネパール大地震救援金募金活動に参加させていただきました。世の人々の多くの善意を体感し、ありがたく涙が出て来そうになる貴重な体験をさせていただきました。今後も皆様のお力添えを頂けますよう、お願いいたします。

第二十九回青少年研修会『研修生の声』

◎お経を唱えてみて：

・お経は難しい文章で頭がこんがらがった。・最初は読めなかつたけど二回目くらいには皆について読めるようになった。

◎座禅の感想

・たたかれるのかと、ドキドキした。・ひざがつかれたけど最後までできた。・手や足の組み方がわかった。

◎長谷寺の感想

・こうやまきが大きかった。・暗闇体験で地球の不思議なことや地獄・極楽の話を教えてもらいためた。・こうもりやウサギが見ることができてうれしかった。

◎その他

・団旗が重かった。・鐘をついた時にお願いをしたことがかなってほしい。・そうめん流しが楽しかった。・室内ゲームをもっとしたかったです。



平成27年7月25日(土)
畑野・長谷寺道場

寺院探訪

佐渡宗務支所下七十四番

多寶山 文殊院 たほうざんもんじゅいん

佐渡市浦川 住職 中浜 照文



文殊院 本堂

当寺は海を見渡すことのできる高台に位置している。浦川は古くからの開けた所であり、一六七二年には寄港地として発展し、帆船が行き交い賑わっていた。

開基は文安三年(一四四六)であるが、古くは堂の浜にあつた地頭持の持仏堂が本寺であった。本尊は大日如来。江戸時代以前には「坊」や「庵」の末寺をもつ影響力の大きな寺院であった。宝暦寺社境内案内帳によれば、文殊院門徒として黒姫・薬師寺、鷲崎・観音寺、北鶴島・常楽寺、梅津・蓮華坊の四ヶ寺が記されており、当寺はこの地域一体の中心寺院であった。

当寺では正月十五日夕刻、世にも珍しい種蒔を行う。寺よりの使者が五十二段の石坂道を下つて、当寺開基檀徒、浦川・佐藤五郎右衛門家に参上し「お支度は出来ましたか、お迎えに参りました。」と：七回目の使いが終わると主は、斎戒沐浴(さいかいもくよく)を済め紋服に威儀を正すし、その間使者は石坂道五十三段の中間で待ち、主の持ち来る米の入った家宝の重箱と豆サン棒二本を受け取り堂宇に至る。このことを「七度半の使」と言う。

また、御霊が八月一日と十一月一日、年二回あり、夏の御霊には御施餓鬼法要も行われ、たくさんのお檀家さんが当寺に訪れる。

昭和六十年(一九八五)弘法大師一千百五十年御遠忌を記念して建てられた大師堂がある。



大師堂

佐渡宗務支所下三十四番

如意山 平泉寺 じょいざんへいせんじ

佐渡市丸山 住職 中浜 浄純



平泉寺本堂

小佐渡のほぼ中央付近に男神山、女神山という二つの山があり、女神山の麓には紅葉の名所として名高い紅葉公園があります。紅葉山公園から車で三分ほど南に下ったところに平泉寺があります。

男神山、女神山はその昔、三助さんとお菊さんという人が多田で出会い、夫婦となり稲作にはげんだという伝説があり、豊作の神様として二人がまつられています。

平泉寺は代々この山の別当を務め、毎年七月二十四日には男神山祭りが行われ、男神山頂のお堂にて大般若法要を行っています。

過去にいくども火災にあい、記録は定かではありませんが、平泉寺は元々天台宗の寺院であり、奥州平泉、あるいは筑波山から来た僧が、持仏の毘沙門天を安置して清水の湧き出るこの地にお寺を開いたといわれていますが、武蔵坊弁慶らとともに源義経の都落ちを助けた常陸坊海尊が当山開基の海尊上人と同一人物なのではないかと最近考えています。

白山権現の別当である福井県勝山市の天台宗の古刹、平泉寺とも関係があるといわれ、郷土史家によれば、女神山に祀られた「お菊さん」は白山信仰の神「菊理媛(キクリヒメ)」のことであり、中世の白山信仰の広がりとともに天台宗系の僧侶によって開かれた、とするのが妥当なようです。本堂向かつて右奥には元禄五年(一六九二)に建てられた毘沙門堂があり、年に一回正月三日の朝に豊作祈願、家内安全を祈願する法要を行います。

毘沙門堂の手前には霊験あらたかといわれる「いぼ取り池」があり、信仰を集めています。

佐渡八十八ヶ所霊場の第七十七番札所でもあり、付近に来る機会がありましたらお気軽にご参拝にお立ち寄りください。



男神山・女神山